

新年のご挨拶



日本脊椎脊髄病学会 理事長 松山幸弘

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては新型コロナウイルスの第3波感染拡大で病院業務から離れることがなく、落ち着いた新しい年をお迎えのことと思います。

また全国各地で感染症対応にご尽力されている全ての医療者の皆様に、心より敬意を表したいと思います。

第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会の開催

新型コロナウイルスの感染拡大で予断を許さない状況下での第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会の開催は、私たちに多くのことを教えてくれました。

完全ウェブ開催に変更するべきか、ずいぶん悩みましたが、神戸コンベンションセンター現地開催と来場が困難な先生方にはウェブ上でオンデマンド配信およびシンポジウム・症例検討、ディベートそして共催セミナーや教育研修講演をライブ配信で視聴やチャットを使用して討論にも参加できる、新しいハイブリッド開催を選択いたしました。

我々医療従事者は感染拡大のリスクを最小限とすることを第一とすべきであります。しかし、社会経済的視点からも我々はこの学術集会開催形態を考えなければいけないとも考えます。現地会場では、感染対策室専門家の意見に従って感染予防対策を徹底し、ソーシャルディスタンスをしっかりと確保できるよう努力をいたしました。また大変好評であったのは企業展示を私が回覧し、それぞれの会社のポイントをYouTube形式で動画配信したことでした。この企画は今後企業共催を得る上で、大変重要なものになると確信しております。

学会が終了した後にクラスターが発生したとの報告はなく、安堵の気持ちで一杯です。今回の学術集会では、数千人に及ぶ人の移動、集合を行うことなく、活発な学術的交流を図ることができる全く新しい形の学術集会のあり方を提案し、未来に向けた大きな第一歩にできたのではないかと考えております。

統合型データベース登録について

またJSSRに最も必要な変革はJSSR統合型データベースの構築と述べてきましたが、この統合型JSSRデータベースはJOANRの2階部分に位置し、基本的患者データはJOANRと共有され、全脊椎疾患に対する手術療法を網羅するものです。まず合併症調査結果をデータベースに入れることから始めることになります。時期は10月頃になると思いますが、全ての会員に入力をお願いいたしますので、その折はどうかよろしくごお願い申し上げます。今後さらにプロジェクト委員会主導の医師主導臨床研究、新技術

評価検証委員会主導の新規デバイスの臨床応用試験データ登録を行い、未来型 JSSR データベース構築に全精力をつぎ込んでゆきたいと思っておりますので御協力をお願いしたいと思います。

専門医試験の受験のお願い

脊椎脊髄外科専門医資格を取得するには、専門医試験を受ける必要があります。まだ600人程度の先生が受けておられませんので、忘れずに専門医試験を受けていただけると幸いです。

『変化を恐れず新しい潮流を』

理事長就任時にお伝えいたしました、変わるリスクより変わらないリスクの方が大きいと肝に銘じ、常に動き、変化のある学会にするべきだと考えています。特に現在のようなコロナ禍で、学会活動や委員会活動形態が変わり、また日本の経済自体も変革を大きく求められています。コロナ災害と言ってよい窮地にある時期こそ学会のあり方や多施設研究のあり方、新技術の開発、仕様策定などじっくり考え、そして新たに変革をするべき時と思っております。学会員、特に理事や評議員の先生方には先陣を切って変わり続けてほしいと願っています。

実際に各委員会活動は活発化し、ウェブ会議を効率的に利用して変化してきています。大変良い傾向と考えます。これが目指すべきチャレンジ精神旺盛な JSSR だと思っております。質の高さに裏打ちされた最新の医療を患者さんに提供するためには、我々自体が進化してゆかねばなりません。我々執行部も精一杯努力いたしますので、会員の皆さまがたのご理解とご支援を宜しく申し上げます。

私の会長講演でも述べさせていただきましたが、困っても『困らない』気持ちの持ちようが窮地に陥っている現在、最も大切な心構えだと思っております。

「どうしようもない」、「困ったことだ」と思ってばかりいると、心が狭くなり、出てくるべき知恵も出なくなります。その一方で、困難を困難とせず、思いを新たに、決意を固く歩んでいけば、困難がかえって飛躍の土台石になることも少なくありません。要は考え方ひとつであり、「困っても『困らない』」ことに人生の妙があるように思います。

特にこの「一陽来復」は松下幸之助の大切にされた言葉。窮地に立つということは、身をもって知る尊いチャンスではあるまいか。得難い体得の機会ではあるまいか。そう考えれば、苦しい中にも勇気が出る。元気が出る。思い直した心の中に新しい知恵が湧いて出る。そして、禍を転じて福となす、つまり一陽来復。暗雲に一筋の日は差し込んで、再び春を迎える力強い再出発への道が開けてくる。

今も今与えられた環境で、このような力強い想いと「困っても『困らない』」心意気でコロナに対応し、そして明るい未来の JSSR を目指しましょう。